

令和5年度 本校の取組の方向性

「限られた時間の中での質の高い学びの実現」「児童や教職員にとっても持続可能な学校の実現」

国においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現による「令和の日本型学校教育」の構築が掲げられ、本市においても、質の高い学びの実現がより一層求められています。

一方で、令和の時代にふさわしい持続可能な学校への変革も欠かせません。本市では平成30年に策定した「教職員の働き方改革プラン」等に基づき、業務の適正化・精選やチーム体制の構築・人員配置の充実をはじめとする取組を総合的に推進してきました。本校でも、具体策を講じながらメリハリをつけた質の高い学びの実現に努めます。

授業力の向上

- ・教科で目指す資質能力と教育課程全体で育成を目指す資質能力との関連を図りながらの授業改善

豊かな心の教育の推進

- ・「ふわふわ言葉」「いいところ見つけ」の取組、「なかよし活動」（ペア学年活動）等を通して、児童の心の醸成及び人権意識の向上
- ・左近山特別支援学校との意図的、計画的な交流
- ・芸術鑑賞会の毎年実施の模索

保護者・地域とのかかわり

- ・「地域人材バンク」※'の活用を図りながら、地域と関わる活動の推進
- ・キャリア教育※'の視点を踏まえた年間指導計画を基にした意図的、計画的な活動の実施

特別支援教育

- ・課題を抱える児童へのチームでの適切な支援・指導
- ・教室環境や授業のユニバーサルデザイン※'についての共通理解

児童指導力の向上

- ・個人面談実施時期変更〔4月・9月〕による児童一人一人に寄り添った支援・指導の充実
- ・「めざそう左近山の子」（月の生活目標）を基に「生活面」「保健面」「給食面」の視点から具体的な行動目標を決め、1枚の紙に収めることでの月めあての集約化
- ・Y-Pプログラム※'年間計画をもとにした児童理解や集団理解を深める支援体制の構築

体力アップの実施

- ・体力アップの時間確保
- ・短時間でできる縄跳び運動を中心にした体力向上
- ・安全に留意した体育科授業の方法の理解を含めた授業力向上

いじめへの対応

- ・これまでの研修等を通して高めてきた職員の事案対応力及び児童理解力の強化
- ・事例研修等を通しての教職員の「いじめ」認知感度の向上と未然防止の取組の実施
- ・児童の些細な言動を見逃さない毅然とした対応の共通理解
- ・職員全員での児童の見守り及び事案対応の検討によるいじめの早期発見、未然防止

職員の資質・能力向上

- ・自らの資質・能力を分析し、振り返り、高めるためのセルフマネジメントの推進及び研修参加への環境整備

業務改善による教材研究の時間確保

- ・9月に個人面談を実施し、前期あゆみ表記の廃止及び時程変更による業務時間内での教職員の裁量のある時間確保と教材研究の充実

その他

- ・第2学年の教科等の予備時数過多のため、週1回実施していた6時間授業の廃止による毎日の5時間授業の実施
- ・留守番電話時間の変更〔7:45～17:15〕による業務に集中する環境の整備



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～

令和5年3月23日

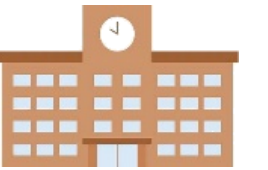


特別号

中期学校経営方針に基づく学校評価結果〔年間〕

昨年度の自己評価結果を生かし、本年度も中期学校経営方針に基づいた本校教育活動の計画・運営を行ってまいりました。1月から2月にかけて年間を振り返りました。12月に実施した児童・保護者アンケートの結果も併せてご報告します。

☞本校の中期学校経営方針については本校 HP を参照



重点取組分野	具体的取組の自己評価結果
豊かな心	①継続した取組を実施したり、きょうだい学年での活動にも取り組んだりすることができた。②左近山特別支援学校との交流は学年毎に取り組むことはできたが、さらに学校全体での目標設定や内容の検討が必要だった。芸術鑑賞会の開催は豊かな心の醸成につながった。
生きてはたらく知	①重点研究にも取り組んでいるため、交流について特化して実践に取り組むことが難しかった。②重点研究や小中ブロック協議会では、教科等で育む資質能力と教育課程全体で育む資質能力のめあてを設定し授業に取り組むことができた。今後は重点研究での取組に焦点を当て、学年暦の見直し等も含め、授業改善に努める。
未来を創る思い	①人材を活用した総合的な学習の実践を行うことができたクラスが増えた。年度当初・途中に進捗状況を確認することで実践を推進したい。②キャリア教育※'と紐づけた年間指導計画は作成したが、実施を徹底できていなかった。年度当初に作成する機会を設定し、促しを強化していく。
特別支援教育	①個々に適切な支援を行うための指導計画等を立てることができた。次年度は、特別支援教育コーディネーターを中心に指導計画の活用を推進していく。②学年毎に教室を確認し、感覚過敏の児童にも配慮した環境整備を行った。全体共有の内容については、今後見直していく必要がある。
児童指導	①児童の反省をもとに、翌月の生活目標を選択し、学校全体で取り組んだことで、児童・教師ともに自分事として取り組む意識が高まった。②YPプログラム※'の実施と検討により、児童理解を深め、児童指導に役立てることができた。プログラムの実施や振り返りも確実にやりたい。
健やかな体	①感染防止対策を講じて、日々の授業に取り組むことができた。休み時間の用具活用や体力アップタイムの実施で昨年度に比べ運動機会をつくることができた。②折にふれて実技研修を開催し、学習の進め方や技能のポイント等を伝えることで、教員の授業力向上に役立てることができた。
いじめへの対応	①事例研修やYPプログラム※'研修を計画的に行い、職員の事案対応力や児童理解力を高めることができた。②諸会議やいじめ防止委員会での検討により、いじめの未然防止に対する意識を高めることができた。学校として事案に対応し、職員全員で児童を見守る体制をとることができた。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①本校職員にとって必須な資質・能力を身に付けたり、各自の資質能力を高めるための研修を自己選択し、資質能力の向上に努めることができた。②教材研究に取り組み、授業準備に時間をかけられるようになった。「質の高い学び」について考えて取り組める環境になってきた。
地域学校協働活動	①合計3回(6月・9月・2月)の開催月を決め、輪番で実施し、各回での実施内容を決めることで、運営体制を整えることができた。②学校説明会や学校だより等で、家庭・地域へ学校運営協議会の意義や活動内容のおよそを発信することができた。

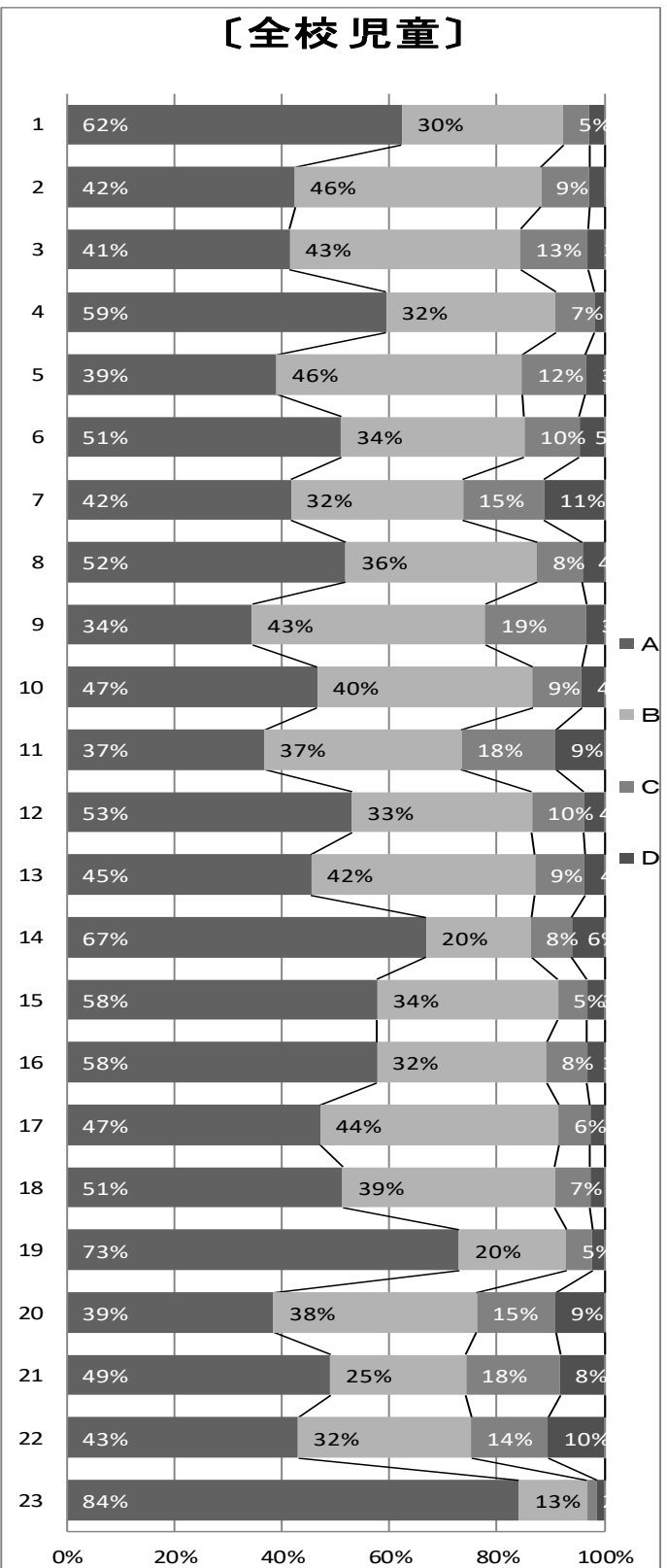
※'キャリア教育…一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
※'Y-Pプログラム…「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の略称で、本来、家庭や地域や近隣社会において経験すべき、様々な体験を十分にしない社会状況にある子どもたちに、これらの体験(横浜プログラムでいう「被受容体験」「がまん体験」「群れ合い体験」の三基本体験)を学校・学級集団の場で経験させ、社会性を育てていくことを目的にした本市独自のグループアプローチ
※'地域人材バンク…社会科、生活科、総合的な学習等を学習する際にご協力いただくために作成した地域人材リストで、地域で様々な知識や技術・特技・経験を身に付けた方々を継続して登録していくリスト
※'ユニバーサルデザイン…文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)のこと。すべての人々にとっても使いやすいデザイン

コロナ禍からウイズコロナへと移行しながら目標達成に努めた1年間でした。感染症対策を講じながら、児童、職員は安全、安心に留意して教育活動に取り組みました。芸術鑑賞会の開催が児童の心の醸成につながるなど、教育効果を高めた活動もあれば、左近山特別支援学校との交流など、制限下による活動となり課題が残る活動もありました。今後、制限が緩和されていくことを想定し、次年度に向けて、コロナ禍3年間での課題を明確にし、意図的、計画的な活動計画の立案に取り組んでいきます。次年度2年目となる学校運営協議会の協力も得ながら、具体的取組を通して、実績を着実に積み上げてまいりますので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

全校 児童 令和4年度 学校生活アンケート

提出数: 497 回収率: 88%
 在籍数: 567

重点項目	No.	項目	A	B	C	D	合計	A	B	C	D
学校教育目標	1	学校が楽しい。	311	150	24	14	499	62%	30%	5%	3%
	2	ものごとくに一生懸命取り組んでいる。	211	228	45	14	498	42%	46%	9%	3%
	3	ものごとを最後までやりとげている。	206	213	63	15	497	41%	43%	13%	3%
豊かな心	4	友達と協力して活動している。	295	157	36	9	497	59%	32%	7%	2%
	5	友達の気持ちを考えて、優しい言葉づかいで話している。	193	226	59	17	495	39%	46%	12%	3%
	6	友達や先生、まわりの人たちに、あいさつを自分からしている。	253	169	51	23	496	51%	34%	10%	5%
	7	自分にはよいところがある。	207	159	75	56	497	42%	32%	15%	11%
生きてはたらく知	8	授業がよく分かる。	258	177	42	20	497	52%	36%	8%	4%
	9	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	171	216	93	17	497	34%	43%	19%	3%
	10	友達と考えを出し合ったり、話し合ったりして学習している。	231	199	45	21	496	47%	40%	9%	4%
	11	まわりの活動に参加したり、まわりの人、もの、ことを活用した学習に楽しく取り組んだりしている。	182	182	87	45	496	37%	37%	18%	9%
未来を創る思い	12	自分は人の役に立つことが好きである。	263	166	48	19	496	53%	33%	10%	4%
	13	クラスや自分のめあてに向かって取り組んでいる。	226	207	46	18	497	45%	42%	9%	4%
	14	将来の夢や目標を持っている。	332	97	38	30	497	67%	20%	8%	6%
	15	何か分からないとき、困っているときに、先生は相談のってくれる。	287	167	27	16	497	58%	34%	5%	3%
特別支援教育	16	毎日、安心して学習したり、生活したりしている。	287	157	38	16	498	58%	32%	8%	3%
	17	学校やクラスのきまりを守っている。	234	221	29	13	497	47%	44%	6%	3%
児童生徒指導	18	友達や家族との約束を守っている。	255	196	33	13	497	51%	39%	7%	3%
	19	みんなでいろいろな活動をするのは楽しい。	362	99	24	11	496	73%	20%	5%	2%
	20	「早寝」「早起き」「朝ご飯」に、毎日進んで取り組んでいる。	191	187	73	45	496	39%	38%	15%	9%
健やかな体	21	放課後や休日など、積極的に体を動かしている。	243	125	87	41	496	49%	25%	18%	8%
	22	いやなこと(暴力・暴言・無視などのいやがらせ)がなく学校生活を送っている。	213	160	71	52	496	43%	32%	14%	10%
いじめへの対応	23	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	418	63	9	7	497	84%	13%	2%	1%



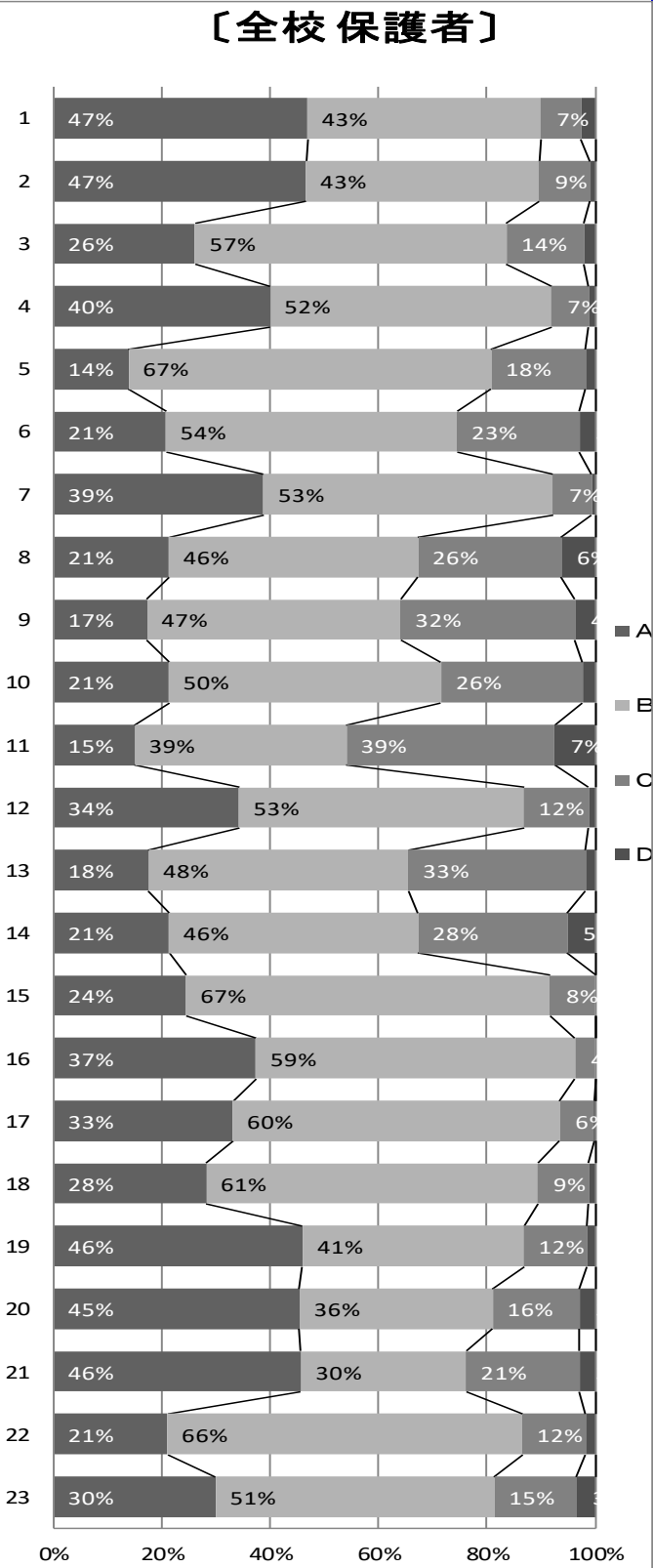
A...そう思う
 B...だいたいそう思う
 C...あまりそう思わない
 D...そう思わない

児童アンケートでは、23項目中11項目で肯定の回答が、昨年度に比べ増加しました。項目1「学校が楽しい」への肯定の回答は、一昨年から経年変化で見ると89% [R2] → 91% [R3] → 92% [R4] と徐々に増加してきました。昨年度と比べ、項目20「早寝・早起き・朝ご飯」は72%→77%で5割増、項目10「学習交流」は83%→87%で4割増、項目2「一生懸命」は85%→88%で3割増、項目16「安心な学校生活」は87%→90%で3割増でした。それは、コロナ禍からウイズコロナへ移行しながら、児童の安心・安全に留意して、教育活動を行ってきた成果だと考えます。大幅に減少した項目はありませんでした。また、項目14「夢や目標」は84%→87%で3割増、項目12「自分は役に立つ」は83%→86%で3割増となりました。コロナ禍3年間の中、多くの制限がありながらも何とか学校生活を送ることができた児童がいた一方で、登校渋りや学習意欲の低下の傾向を示す児童が増えてきました。学校では、児童が安心して登校できるように、常に児童の心に寄り添った支援をしていくことで、心の安定を図って参ります。各家庭におかれましても、栄養のある食事、よりよい睡眠環境、日常的な運動機会をつくれるよう努めていただければ幸いです。そして、これまで以上に家庭との連携を密にし、教育活動の充実に努めます。

全校 保護者 令和4年度 学校づくりアンケート

提出数: 348 回収率: 91%
 在籍数: 567

重点項目	No.	項目	A	B	C	D	合計	A	B	C	D
学校教育目標	1	おписさんは、「学校が楽しい。」と言っている。	163	150	26	9	348	47%	43%	7%	3%
	2	おписさんには、一生懸命取り組んでいることがある。	162	150	33	3	348	47%	43%	9%	1%
	3	おписさんは、物事を最後までやりとげている。	91	200	50	7	348	26%	57%	14%	2%
豊かな心	4	おписさんは、協力して物事に取り組んでいる。	139	181	24	4	348	40%	52%	7%	1%
	5	おписさんは、礼儀・言葉遣いなどの生活習慣が身に付いている。	48	233	61	6	348	14%	67%	18%	2%
	6	おписさんは、進んであいさつをしている。	72	187	79	10	348	21%	54%	23%	3%
	7	家庭では、おписさんのよいところをほめている。	135	186	25	2	348	39%	53%	7%	1%
	8	おписさんは、家庭での学習習慣が身に付いている。	74	160	92	22	348	21%	46%	26%	6%
	9	おписさんは、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	60	163	112	13	348	17%	47%	32%	4%
	10	おписさんは、いろいろな場面で、自分の考えや思いを相手に伝えられている。	74	175	91	8	348	21%	50%	26%	2%
生きてはたらく知	11	おписさんは、地域の行事に積極的に参加している。	52	136	134	26	348	15%	39%	39%	7%
	12	おписさんは、人の役に立つことが好きである。	119	183	42	4	348	34%	53%	12%	1%
	13	おписさんは、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	61	167	114	6	348	18%	48%	33%	2%
	14	おписさんは、将来の夢や目標を持っている。	74	160	96	18	348	21%	46%	28%	5%
特別支援教育	15	学校は、一人ひとりを大切にしている教育を行っている。	85	234	29	0	348	24%	67%	8%	0%
	16	学校は、子どもが安心、安全に学校生活を送れるように環境整備を行っている。	130	205	13	0	348	37%	59%	4%	0%
児童生徒指導	17	おписさんは、きまりを守って生活している。	115	210	22	1	348	33%	60%	6%	0%
	18	おписさんは、友達や家族との約束を守っている。	98	213	33	4	348	28%	61%	9%	1%
	19	おписさんは、人とかわかることが好きである。	160	142	41	5	348	46%	41%	12%	1%
健やかな体	20	おписさんは、「早寝」「早起き」「朝ご飯」の生活習慣が身に付いている。	158	124	56	10	348	45%	36%	16%	3%
	21	おписさんは、外で体を動かしたり、運動に親しんだりしている。	159	106	73	10	348	46%	30%	21%	3%
いじめへの対応	22	学校は、いじめや差別に対して、毅然とした対応をしている。	73	228	41	6	348	21%	66%	12%	2%
	23	家庭では、いじめについておписさんと話し合っている。	104	179	53	12	348	30%	51%	15%	3%



保護者アンケートでは、項目1「学校が楽しい」を、一昨年から経年変化で見ると93% [R2] → 92% [R3] → 90% [R4] と徐々に減少してきました。児童が23項目中11項目で前年度のポイント数を上回った(8項目は否定回答)一方で、保護者は、23項目中3項目という結果でした。項目8「家庭学習の習慣」は77%→67%で10割減、項目9「自力での課題解決・積極性」は69%→64%で5割減、項目10「思いや考えの発信」は74%→71%で3割減となり、学習面の項目で大幅に減少していました。児童アンケートから、児童は「やれている」「できている」と思っているが、保護者の皆様は、そのようになっていないと見ることができます。項目5「礼儀・言葉遣い」は85%→81%で4割減、項目12「人の役に立つのは好き」は91%→87%で4割減、項目13「努力」は68%→66%で2割減という結果から、児童は、コロナ禍による心への影響が大きかったことがうかがえます。項目20「早寝早起き朝ご飯」は87%→81%で6割の大幅減でした。これは本校全校児童567名中、約107名は早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身に付いていないということになります。早寝・早起き・朝ご飯等の安定的な生活習慣が身につくよう家庭での支援をお願いいたします。項目15「一人一人を大切にしている教育」は91%→91%で現状維持でした。学校では、児童一人一人の多様性を認めながら、家庭と連携し、今後も個を大切にしている教育を推進します。ご家庭におかれましても、コロナ禍の影響により気持ちが不安定になっている児童を支え、常に安心して生活できる環境を整えていただくことで、児童がもてる力を発揮できるようご協力をお願いいたします。

